(明治四十一年二月十三日第三種郵便物認可) (日刊) 日曜日及祭日の翌日休刊 明治四十二年十月三十日 (土曜日) 第二百五十二號 (一)

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

京城新報

キッチナー元帥を歡迎す

英帝國に於ける最大の軍人、世界に於ける堅實なる戰略家、堅忍不拔、品性高潔なるキッチナー元帥來る、元帥は英國皇帝及英國陸軍を代表して、我陸軍の特別大演習を觀んが爲に來る、途次我保護國たる韓國をも見んとして來らる、是を以て端なく余輩は名譽高き元帥を歡迎するの機會に接するの光榮を得たり。

キッチナー元帥は實に軍人の標目として尊崇すべきの人也、何人も知る如く、キッチナー將軍の雄名は、早くも彼のカルツームに於て、ゴルドン將軍の救援に赴きたる時に於て現はる、當時に於ては一個の佐官に過ぎずと雖も、其戰畧の確實にして巧妙なる、其操行の謹嚴なるとにより世の歎賞を受けたり、埃及に於ける陸軍司令官として敵兵を一掃して、平和に歸せしめたる其膽勇と智畧とには何人も畏服せざるを得ざりき、亦南阿戰爭に於ける參謀長として、ロバーツ將軍を補佐し能く偉功を奏したり茲に於てキッチナー將軍の雄名は益々昂る英帝國に於ける最大の軍人、堅實なる軍略家たるの名譽は世界に轟けり、元帥は南阿戰後印度陸軍司令官に轉じ、爾來鋭意勵精印度の軍隊を改善せらる、是により元帥は嘗に軍略家として雄名を馳するに止らず行政的手腕も凡ならざるを發揮せり、今や印度の陸軍は整備して、元帥の巨腕を煩はすに及ばざるに至れり、而して本國に歸て更に樞要の職に就かんとす、其間に於て我陸軍特別大演習を見られんとして來遊せらる、祖國に於ては今や此賓客に對する待遇の準備至らざるなし、此名譽高き元帥を迎るは帝國の最も光榮とする所也。

余輩が韓國に於て元帥を歡迎するに當りて特に感ずる所のものは、元帥は夙に英國の保護國たる埃及に永く陸軍司令官として駐在せられし事也、元帥が日本の保護國たる韓國の現狀を觀察して如何に感ぜらるゝかは聊か興味ある事なりと信ず。

元帥の嚴肅端正なるは何人も知る所、此點に於て敎訓を受ることの極て多きを信ず其品性の高潔なる眞に軍人の鑑たる也、今や面の邊り其高風に接して歡迎するの機會を得たり、余輩は滿腔の誠意を傾けて歡迎するもの也。

●キ元帥の來遊

▲廿九日京城來着

英帝國に於ける最大の軍人なるのみならず現時の世界に於ける最大手腕の軍人吉智納元帥は其の極東視察の旅行中二十二日を以て營口に到着し我國の賓客となれり元帥は是れより我が陸軍の接伴官と共に滿洲の戰場を巡覽し韓國を經て十一月二日東京に來り英國皇帝及び陸軍を代表して那須野ヶ原に特別大演習を觀んとす此の名將を此の機會に於て迎ふるは我が日英同盟の爲めに大に歡ぶべき事と云はざる可からず

△戰略と陸軍行政の天才

元帥吉智納子爵は戰畧と陸軍行政の天才にして同時に強大なる意志と精力の人なり彼の如く難局より難局に當りて常に之れに成功し赫々たる經歷を有すると同時に又た將來に於て彼の如く重大なる責任を有する將軍は蓋し現時の英國の陸軍に之れを見るべからず元帥は英國に於ける最も昇進の速かなる軍人にして最も若き元帥なり過去二十年間英國陸軍の名聲は多く此の名將の力によりて保持せられたりと云ふも過言にあらず而して今後英帝國陸軍の組織が此の大天才の力に待つ所大なるは極めて明かなり元帥は名をホレーショー、ハーバートと云ひカルツーム、パール、及びアスポールのキッチナー子爵と稱ふ

▲絶間なき戰鬪中の功績

一八五〇年愛蘭に生れ皇立士官學校に入り一八七一年工兵少尉となり直ちに普佛戰爭に赴き佛軍に加はりて最初より苦戰難鬪の經驗を嘗めたり一八七四年より八二年に至る八年間はパレスタイン及びサイプラスに於ける測量及び行政の事務に從事し八二年より埃及の騎兵指揮官となり幾ちカルツームに於けるゴルドン將軍の救援を試みて其功を奏せり八五年ザンジバールの境界劃定委員となり翌年工兵中佐となり埃及に歸りて土民兵の指揮官となり八八年大佐に進み蘇丹スアキン州の知事となり大に軍事及び行政に鞅掌する所ありたり而て其年の冬蘇丹ハンツープに於て勇戰し重傷を蒙りしが本國政府より大に其功を賞せられたり蘇丹戰爭の始や直に命ぜられて埃及陸軍の副司令官兼警務總監となり九二年埃及陸軍總司令官に任ぜられ上埃及回復の目的を以て大に戰備をなし九六年再び戰爭を開始し直に敵の本壘を拔き少將に昇進し更に軍を進めて遂にカルツームに迫まり九八年九月二日カルツームを取り敵兵を一掃して上埃及を平定し英國民をして狂するが如く歡喜せしめたり其の英本國に凱旋するや其功によりて彼はカルツーム及びアスポールの男爵に叙せられ議會は此將軍に對する感謝議決をなし三十萬圓の贈與をなせしが九十九年吉少將は蘇丹總督となり漸く其經營に着手せんとするや南亞の戰爭始まりヅーラー將軍敗戰しロバーツ元帥代はりて英軍の總司令官となりしを以て吉少將は中將に進められ參謀長として之れに從ひ大に元帥の爲めに作戰の計畫をなせり既にして一九〇〇年の暮ロバーツ元帥の歸國するや吉將軍は大將に進み南阿に於ける英國の總司令官となり其の極めて忍耐強き極めて確實なる戰畧によりて終によく南阿全部の平定を遂げ其功によりて子爵に叙せられたり

▲印度軍隊の根本的改造

吉將軍は南阿より一九〇二年凱旋するや直ちに印度陸軍司令官に任ぜられ亂雜なる印度の軍隊を根本的に改造し訓練するの難事業を引受け赴任後二年間は全力を精密なる調査と研究に傾けしが愈々彼の斧刀を揮て改革に着手するや種々の大困難續出し將軍爲めに諸方面より種々の批評を受けしも能く其の巨大なる腕力と精力とにより斷々乎として其の所信を遂行して進み着々顯著なる實功を擧げしが故朝野の信任動かすべからざるに至り五年の任期は異例を以て二年間の延期となり七年の歲月を以て將軍は殆んど其の思ふ儘に印度の陸軍組織の業を全うせり而して英露の協商成りて印度の國境安全となり陸軍は斷く鞏固となりたるを以て今や吉將軍の偉才は帝國陸軍大組織の事業に向て用ゐられざる可らざるの時となれり其印度を去らんとするに當り吉大將は元帥に進められたり

▲英陸軍組織活動の中軸

今後に於ける吉元帥の事業は印度の陸軍濠洲の陸軍加奈太埃及南阿の陸軍總てを統一し英帝國の大陸軍を組織するにあるが如し元帥の方寸既に成竹あるべし此の計畫を以て歸途濠洲及び新西蘭の陸軍組織に助言を與へんとす其の結果知るべきなり元帥は歸國後地中海司令官の任に當る事となり居れり此の地位は二年前に創置せられたるものにして是迄はコンノート公の占むる所なりしが今度は吉元帥之れに代る事となれり地中海司令官は歐羅巴阿弗利加亞細亞の間に於ける英帝國陸軍組織活動の中軸を握れる位地にして極めて重要の任務なり此の位地吉元帥に歸せば彼れ必ずや之れよりして帝國陸軍大組織の事業を開始すべしとは英國に於ける識者の既に豫期する所なり斯の如き位地に在り斯の如き經歷と識見と手腕とを有する此の名將が今滿洲に於ける實戰場を見而して來て我が陸軍を觀察せんとす其の結果の我が日英同盟の爲めに大なる仕合なるべきは言を俟たざるにあらずや

Field-Marshal Lord Kitchener.

雜報

獨立心の變形

一記者

新開地や殖民地の人間は、任懸一方に於ては澤篤な、そうして不人情な處が見ゆるも之と正比例に、一方に於ては獨立自營てふ麗はしき感念が十分に昂まつて、其地に發育せらるゝ兒童に於て殊に其の傾嚮の著るしきものがあるのは實以て喜ばしき現象ではあるが、往々にして此の氣象が不可思議にも不思議の形に於て不思議の邊に現はれて來るのは些か驚かざるを得ない、韓國に於ても其の事例は甚だ夥しいものだが、茲に其の一例を擧ぐれば、妻女の財產隱匿である、夫に隨ひ事に此地に從ふ大小人の妻女が一種變挺の方法を廻らして月に年に夫の財產を胡麻化し私かに蓄財する一事は、確に獨立の氣象の不可思議に彩られたる變形である、彼等は米、酒、魚、野菜何でも購入したる物に對して價格以上の請取を書かせる是れ即ち彼等の財產橫領蓄財の一方法である、何が爲めに之を爲す、曰く万一を慮つてゞある、萬一を慮るとは什麼、曰く己の破鏡、夫の死亡に遭ひ獨活又は再醮に準備す。と聞かば其等の由事は其の地の新開地植民地たるの故を以て起るにあらずして一に其の人の戀難によると思はんも、此地に於ける四圍の事情は人の妻女にも人の容易に倚るべからざるものであると個信せしめ、遂に我夫に對してすら不安の念を懷くに至らしむるのである、事實破鏡の悲劇は日々に行はれ續々再醮專屬になつて居るのを見れば此等の曲事が行はれるのも無理からぬとも思ふ、唯此の一事は嘗に下層の民間にのみ行はるゝものでないと附言せねばならぬのを悲しむ、吾人は此の現象が獨立の氣の變挺に變形したるものであると儀すると同時に妻女に對しては兎に角養育する兒童に對しては十分の顧慮を要するものたることを警告せねばならぬ。

●割烹界の寵香 味の素

「味の素」は調味料として、和洋料理には勿論、一般の家庭に是非缺くべからざるもので、旅行の時などに携帶せられたならば、如何なる邊鄙な土地でも、食物の不味さを訴ふることはありません、その上鰹節や、昆布の様に色々御加減の手數も入らず誰れにでも克く即座に忘れる事のできないうまい飲食物を調理するに味の素の外にはありません。一瓶金四十五錢、他地方は引替小包にて送ります

韓國特約店 歐米雜貨 洋酒食料品 洋煙草類 直輸入商 京城本町二丁目 同 三丁目 辻屋 本店 電話二四八番 支店 電話三六六番

卷煙草 八島 京城 廣江商會 電話五七六番

暖爐各種 煙突取付並ニ煙突掃除大勉強 京城本町五丁目角一番戶 馬木勇吉 電四七一番 龍山山下町兵器廠官舍通入口 馬木支店 電三六四番

廣告

最上醬油 韓國仁川 日本醬油株式會社

廣告

眼科專門 京城本町一丁目憲兵分遣所前 江頭眼科醫院 (電話三二三) 前漢城病院眼科部長 醫學得業士 江頭富雄

支那小犬一疋 毛色赤身長一尺 牝 右行衛不明と相成候に付御見掛け被下候御方には相當の御禮可仕候 京城貞洞 ソンタクホテル マンニング

京城居留民の天長節奉祝會を開催するに付會費金二圓を添へて十一月一日迄に京城居留民團役所に申込み會員章を受取らるべし 明治四十二年十月廿四日 天長節奉祝會發起人 中村再造 和田常市 熊谷賴太郎

제252호 1909. 10. 30.

美術襟半帯上帯締其他紐類各種
京城明治町一丁目
ゑり德商店

東京電報

▲國葬事務の開始　本日より靈南阪官邸に於て國葬に關する事務開始さる（二十八日夜着電）

▲各國皇帝の吊電　英獨露伊太利各皇帝及び墨其哥大統領より伊藤公遭難に就き懇篤なる吊電あり我陛下より御答電を發せられたり（同上）

▲外套貫通の彈痕　中村滿鐵總裁も外套を徹しズボンに貫通せる彈痕あり室田義文氏にも同じく彈痕ありたり

▲伊藤公爵の靈柩　伊藤公の遺骸は厚さ一寸の檜棺に收めフォルマリン死斯を充し密閉せるものにて昨夜富岡弐官伊地知師團長古谷秘書官其他多數の者徹夜して用意したり（同上）

▲韓國太子に優詔　天皇陛下は岩倉宮相を韓皇儲邸に遣はし伊藤補育總裁薨去に就き卿の心情察すべし朕は日ならず適當の後任を撰ぶべく幸に學業を廢する勿れと慰諭せられたり（廿九日着）

▲鶴原前長官の談　伊藤公兇變に就き鶴原前總務長官は語つて曰く伊公暗殺の風說は從來屢々起りたるも公は毎に見慮に均しき言動なりとて齒牙に掛けざりし曾て平南觀察使の私邸にて密書を發見せる時も消遣へ密書を傳へたる事件も何等注意を拂はず總て秘密に葬り去れり今現に此奇禍を買ふ思ふに其背後には有力なる主唱者潜げ可しと云々（同上）

▲全國學校の休業　文部省にては故伊藤公國葬の當日全國各學校に休業を命じ公の威靈に對し哀悼の意を表せしむべしとの議起り明中決定す（同上）

▲共犯九名の捕縛　哈爾賓にて今日兇漢の連累者九名捕縛せられたり

▲伊藤公の葬儀費　は三万圓にして委員は宮內省內閣樞密院各方面より撰任せられ伊東巳代治子以下は同公爵家の葬儀係りに任せらる（同上）

▲葬儀準備と豫算　伊藤公爵葬儀係長以下委員は靈南坂樞密院議長官邸に於ける同事務所にて事務を開始し葬儀豫算三万圓の見込にて準備編制中なり

▲犯人の身元判明　犯人ウンチアン（既電）は歐文ウン、チル、アンにして歐文書式にて名を先に姓を後にて記せるが爲めなり之を韓音にて讀めばアンウング、チルとなり漢字にて即ち安應七なり安應七は有名なる李範晋（親露派の巨魁）の門下にして浦鹽斯德に永らく在任せるものなり（廿九日至急報）

歐州電報

▲伊獨兩帝の吊電　伊藤公の悲音に接するや獨帝は深厚なる哀悼の意を表し公は東西第一流の政治家の一人なりと言明せられ伊太利皇帝は日本天皇陛下に長文の御親電を發せられたり（廿九日東京經由）

桑港電報

▲兇變と米國官民　米國官民は伊藤公の暗殺の報に接し非常に驚嘆し新聞紙は號外を發し公は世界三大人物の一人なりと激賞し今回の暗殺は日本國民をして憤慨せしめ韓國に對する安寧秩序を維持する爲め一層強壓手段を採るに至るべく尙國務卿ノックス氏は國務大臣に通知し同時に又ミシッピー沿岸旅行中の大統領タフト氏に通知しタフト氏は日本皇帝陛下に向ひ親電を發せられたり（廿九日東京經由）

大連電報

▲靈柩大連の模樣　昨日伊公の遺骸大和ホテル出棺の際は中村滿鐵總裁其他の贈れる花環にて裝飾せし馬車に靈柩を安置し其兩側には中村總裁は守刀を龍井秘書役は重要書類を容れし革鞄を古谷秘書官は公の遺狀を小山善氏は公の最後に冠りし帽子を持し埠頭に至りたるが行列は警官憲兵先驅し會葬者無慮千名にして何れも悲痛の色面に浮び悽慘を極めたり（廿九日）

▲海上辛ふじて吊問　光濟號の大連入港は十時二十分にして韓國派遣の吊問使一行は三山島沖にて秋津洲に辛ふじて追ひ付き吊意を表せりと（同上）

▲中川檢事の北行　檢事長中川一介氏は光濟號より大連へ上陸し直ちに北行列車にて長春に向へり（同上）

雜報

●兩皇帝の御會談　韓皇は一昨日統監邸より還幸の途次德壽宮に太皇帝を御訪問ありたるが今兩宮御會見の御模樣に就て君側に侍せる某大官の漏らせる消息なりと云ふを聞くに韓皇は先づ父君に對し伊藤公が我韓國人の兇手に殪れたるは誠に痛嘆の極みにて本日は特に統監邸を往訪し吊辭を述べ且つ同公葬儀に對し勅使差遣なども下問したりと仰せられ夫れより東京御留學中の韓皇儲の御身の上に就て御對談の後太皇帝は玉体嚴に韓皇に對し朕は此際多くを語らず只一言申し度き事は斯る重大事件の發生したる際なれば內閣大臣の奏請に對し十二分の注意を拂ひて裁決し殊に玉璽の押捺に就ては遺漏なきを期せられよと仰せられたりと云ふ（電報通信）

●祭祀料と吊慰金　昨紙所報の如く伊藤公の葬儀に就て韓皇は參萬圓の祭祀料を贈る筈なるが尙遺族に對しては吊慰金十万圓を贈る由にて公は生前韓國の親王待遇にして且大師たるを以て其の秩祿は三萬餘圓を受けらるべき資格なりしと雖潔白なる公は之れを辭退し受けられざりしを以て旁々今回の吊慰金ある譯也と

●御名代と韓太子　伊藤公の葬儀に參列せる韓皇の御名代は在東京の韓太子に仰せ付けられ義親王は其副使として參列する筈なりと

●束帛と吊文內容　今次藤公の葬儀に參列せる趙農相は既報祭粢料の外束帛を携帶する由なるが這は韓國に於て最も古式の最敬禮に用ゆるものにて日本の幣帛と其の性質を同ふし吊文の內容は伊藤公が韓國の爲めに盡されたる功勞を頌して公けには統監としての指導と私には師と成られて銘謝す云々と云ふにあるよし

●特派大使の出發　伊藤公國葬に列せしむる爲め韓廷は左の諸員に命じ今朝九時出發の筈なり

特派大使義親王、隨員小宮宮內次官、義親王總辨金澤基、御附武官張寅根、禮式官朴叙陽、同李仁用、宮內府囑托佐伯達
太皇帝御使　承寧府副總監　朴齊斌
宮內、高等官總代　內藏院卿　徐錫敏

●曾禰統監の參內　曾禰統監は國分秘書官、外波武官を從へ二十九日午前十時四十分參內し二十分間餘謁見を給ひ御挨拶申上げて退出したりと

●韓皇と伊公遺族　韓皇には伊藤公夫人及令嗣博邦氏並に二男文吉氏へ親しく御親電を賜はる由に承はる

●滿鐵の歡迎交涉　露國官憲は伊藤公ハルビン着の際官憲以外の歡迎を許さゞる旨滿鐵に向け申來りたるにより滿鐵よりは更に日本人の歡迎は免され度旨交涉したる結果日本人の歡迎を許可され而して兇漢は此中に加りたるなりと

●伊藤公と追悼會　統監府の發起にて伊藤公國葬當日の同時刻に悲壯沈痛なる一大追悼會を大和町憲兵隊本部に於て營む可く目下準備中なり而して公が臨終の一刹那嚴然として睨め付けたる兇漢は韓國民にして如何に痛切なりしか察するに餘りあり嗚呼公の威力も遂に韓國民は濟度し能はざるを思へば其遺恨幾千ぞ故に當日は在韓日本人のみの會合にして韓國人は斷じて入場を容さゞる事に決定せりと

●勅使一行の歸京　伊藤公遺骸慰問使李總理大臣一行を載せたる光濟號は別項東電の如く午前十時後大連へ入港したるも公の遺骸を搭乘せる軍艦秋津洲は既に拔錨して港口遠く三山島へ出でたる樣なるを以て急ぎ鍋島外務部長中川檢事長を上陸せしめ直ちに進路を轉じて追尾し信號を以て同艦の進行停止を乞ひ茲に漸く勅旨を傳へ遙かに公の威靈を禮拜して告別を爲し夫れより午後一時直ちに歸航の途に就き昨日午後二時仁川に着したる筈なり

●兇行犯人の素性　伊藤公狙擊の兇徒はウンチアンなるもの[illegible]安應七（[illegible]）外八名にして現場に於て逮捕されたるが而して安應七はウンチアンと同一となりたるなるべし偖安應七は平安道生れにして浦鹽に在住せるものなる由なるが彼に遊びスチーブンス氏暗殺事件の張本人たる安昌鎬（平壤在住）等と氣脈を通じ常に排日會合密議したることあり又李甲は伊藤公狙黨の前日即ち二十五日巡遊地の平北龍成擊說亦藤公遭難の前後より蹤跡[illegible]衛不明なりと言へ

●學部大臣の訓令　學部大臣は本日左の訓令を漢城府、觀察道及び官立諸學校に傳へ各地方の諸學校へは更に地方長官よりこの意を體して訓令を下さしめ學童をして敬吊の意を表せしむる事とせり期日は未定なるも多分國葬當日より向ふ三日間に決せらるべし

太子大師伊藤公爵殿下今回哈爾賓に於て不幸兇漢の毒手に罹り溘焉薨去せられたるは上下等しく驚駭して痛恨に堪へざる所なり惟ふに殿下は統監として我國を指導し太子太師として皇太子補育の任に膺り終始我國の休戚を以て念とし國家及國民の福祉を增進するに孳められたるは特に言を俟たず俄然其兇報の到るや皇上深く軫念して痛悼の意を表し給ひ三日間停朝市を命ぜられたり就いては其の管下公私立學校に豫め訓達し不日更に通達するの日を期し一齊に授業を休止し學員學徒に訓諭を與へ以て敬弔の意を表せしむべし

●法部廢止と勅令發布　法部廢止に伴ふ諸勅令左の如く昨日官報を以て發布せられたり

一、法學校官制發布但し法官養成の爲め法學校を設け學部大臣の管理に屬せしむる件
一、隆熙元年勅令第五十一號法部官制廢止の件
一、同年勅令第七十號判事檢事官等定員及俸給令廢止の件
一、同年勅令第七十二號裁判所繙譯官及官補官制廢止の件
一、同年勅令第五十二號監獄官制廢止件
一、同二年勅令第五十三號未決已決囚押送規則廢止の件
一、光武二年勅令第三號監獄規則廢止件
一、隆熙二年勅令第五十一號警察官署留置場へ留置及留拘刑罰執行に關する件
一、同年勅令第卅三號監獄官服制及徽章制定に關する件
一、同三年勅令第四十八號法官任用令
一、從來法部大臣の處理に屬せる土地家屋證明に關する事務は內部大臣行ふ件

●法權委任と法律廢止　韓政府は昨日の官報を以て左の諸法律廢止の件を發布せり

隆熙元年法律第八號裁判所構成法
同　第九號同　施行法
同　第十號裁判所設置法
光武十一年法律第一號民刑事訴訟に關する件
隆熙二年法律第十八號本開廢區裁判所事務に關する件
同　三年法律第十八號辨護士法
右は孰れも十月三十一日限り廢止せらるゝものとす

●諸法律改正の件發布　韓政府は左の諸法律改正の件を昨日の官報を以て發布せり

一、隆熙二年法律第十三號民刑事規則中第百三十八條乃至百四十一條削除の件
一、同年法律第二十四號刑事裁判所費用規則中第一條第四號中改正の件
因みに施行期は孰れも十月三十一日とす

●韓國勅使の隨員決定　昌德、德壽兩宮より伊藤公葬儀に對し勅使を派遣の事は既報の如くなるが其隨員は小宮宮內府次官、禮式官朴叙陽、通譯官國分哲、親衛府武官張寅根の諸氏に決定せり

●仁川の天長節祝賀會　仁川官民の天長節祝賀會は來月三日岩崎民長、奥田民會議長、加來商業會議所會頭の發起に依り八阪樓に於て開催する筈なるが會費一圓五十錢何人と雖も參會隨意なれば會費を添へて民役所まで申込まるべしとなり

●模範店員慰勞會開催　仁川實業同志會は一昨日役員會を開き店員獎勵の件に關し協議せし結果來月中旬市內各商店に於ける模範店員を撰出し盛大なる店員慰勞會を開き紀念の爲め牌を贈與すと

●龍山校の聖影安奉式　新築中の龍山小學校にては來る十一月一日聖影の奉安式と新築落成式を舉行し同時に兒童の成作品展覽會を三日間開催すると

●統監府代表者の東上　統監府にては國分秘書官を代表者として伊藤公の葬儀に列せしむる事に決定し今三十日午前九時南大門出發東上せし筈なり

●民團商議葬儀參列員　京城民團と京城商業會議所にては伊藤公の葬儀參列の爲め進辰馬氏を上京せしむることとし同氏は弔文を携帶し昨日上京したり

●元帥の入京光景　キ元帥一行は豫定の如く昨二十九日午前八時十分新義州を發し列車內にて晩餐を喫し同午後十時二十分南大門驛に着し日韓官民多數の出迎を受け停車場より馬車にてソンタクホテルに入りしが大久保大將、明石、石井二少將、吉田少佐、古城中尉は賓客の一行を其旅館迄見送れり

●元帥本日の往訪　本日のキ元帥は午前九時三十分旅館ソンタクホテルを出で統監及び軍司令官を各其の官邸に訪問し十時三十分歸館十一時統監軍司令官の答訪を受け十二時十五分十三聯隊將校集會所に設けられたる軍司令官の午餐會に出席せらるべく其の途中は第一馬車にキ元帥明石少將フヒッゼラルド大尉同乘第二馬車にローリンソン少將ボージャ中佐古城中尉同乘第三馬車に吉田、增田、河西、竹本少佐等同乘十三聯隊に着し武器を觀覽し校宴席に臨み既報の餘興を觀て三時會場を辭し博物館に到り陶器類を觀覽し四時二十分歸館更に七時より統監の晩餐會に出席せらるゝ豫定なり

●キ元帥の入京と警備　今回英國キッチナー元帥入京に就き京城憲兵分隊にてはキ元帥の旅館ソンタクホテルに臨時派出所を設け警備をなす由なり

●大隈伯の談話（伊藤公の遭難に就て）　大隈伯は伊藤公遭難に付き來訪者に語つて曰く無論即死したのサ、重傷なら動かせやしない、又動ける程の負傷なら現にコヽツエフが待つて居るのだから、態々引返して來る筈がない▲遺骸だけを大急ぎで持つて歸つて東京に着た上で、死んだ事を公表するのだらうが伊藤の爲には彼處でア、いふ死方をしたのが死花だから、ナニも秘し隱す必要はあるまいと思ふ、イヤ伊藤が生て居たら怒るだらう▲生きて居る時から好運の男であつたが、死ぬるのにも運が好かつたな何にしても今殺されたといふ事は伊藤に取てはこの上もない幸福だ板垣を見ても分る人間は死時が大事だからナ、伊藤もこの先ヨボ〳〵生きて居るよりは、今が死時さ我輩が我輩は別だよ、一日生きて居れば一日だけ向上して行く、我輩は脚をなくした時死んで了へば良かつたと今では考へて居らぬ▲我輩との關係か、伊藤とは五十年の交際で一處に仕事をした事もあり喧嘩をした事もあり公に就ては種々の變遷もあつたが私交上の親友としては終始渝らずだ我輩を知る者は伊藤ノ伊藤を知る者も亦我輩だと信じて居る、伊藤の我輩に於ける所謂知己なるもので、哀悼といへば之程哀悼の事は無いが、事ら我輩は婦女子見を避て專ろ伊藤のために其死處を得たのを祝さうと思ふ▲唯、此は誠に恐多い事だが　陛下の御信任は非常に厚いから、伊藤が不慮の爲に亡くなつたと聞召されたら、どんなにか宸襟を惱せられるであらう、その點を想ふと我輩も畏さに涙がこぼれる、我輩が泣くのは伊藤のためでは無い▲伊藤の功業か左樣その跡から見れば天見屋根命以后の第一人だが、その內にどれ程、先輩や時勢やの御手傳があつたかといふ事は大分問題だね▲我輩が脚をやられた時、伊藤が見舞てくれたからこの次は貴樣の番ぢやといふて笑つた事があるが、その時にはナニ伊藤などとても人に殺される程の事は出來やしないと思つて居たが物の間違といふ者は仕方のないものでどう〳〵朝鮮人に殺された若し朝鮮人が朝鮮の爲と恨めば伊藤よりも我輩を余計に恨まねばならぬ筈だ、伊藤は朝鮮に取つては大恩人だからな▲伊藤が死んだからといふてどの方面にも別に大した影響はあるまい謂はば伊藤は今ではもう隱居格で當主ぢやないからね、唯列國では實際我國で思つて居るよりもヒドク取つて居るだらう、何といふても伊藤は世界の大政治家で列國の目から見ると、桂などはまだ小僧だからね。

●龍山通信（廿九日支局報）

▲キ元帥出迎　大久保龍山民長、上村龍山署長の兩氏は昨二十九日午前九時二十分發の列車にてキ元帥を開城まで出迎へたり

▲慰勞宴延期　龍山警察署員、憲兵分遣所員及び龍山民團役所員は昨夜八景園に於て防疫慰勞宴を開く筈なりしも伊藤公薨去の飛報に接し數日間遠慮延期する事とせり

●中央大學々員會　中央大學韓國支部の學員會は今般大審院に榮轉せし香阪駒太郎平壤控訴院に轉任せし結城朝陽大邱に轉任せし永沼直方三氏の送別を兼ね二十八日午後五時より京城ホテルに開會したるが先づ秋期大會を開き韓國支部長たる香阪氏榮轉に付後任を平山學士に托囑する件を議定し次に幹事の改撰を爲したるに神田喜三郎、宇都宮高三郎、洪在族、安藤靜、の四氏當撰し夫れより送別宴に移り散會したるは十一時なりしが參會者三十餘名頗る盛會なりき

●燈臺局長の講話　豫定の如く本日午後一時より仁川民役所樓上に於て漢江流域運用に關する燈臺局長の講話ある筈なりと

●全南觀察使入京　全羅南道觀察使申應熙は昨朝木浦丸にて仁川上陸直に入京せり

●佐藤金助氏出發　來京中の平壤理事廳副理事官の同氏は一昨日釜山へ向け出發す

●代野檢事の退京　平壤地方裁判所檢事代野德太郎氏は二十八日出發釜山へ向へり

●清家正義氏歸任　度支部技師藏稅課技術部長の同氏は二十八日開城へ歸任したり

●新聞記者伊達氏　國民新聞記者伊達源一郎氏は二十八日新義州へ向け出發したり

近事片々

▲伊藤公の遭難に就ては祖國人心の憤慨は絕頂に達せるもの〻如し是れ當然の至か
▲輿論の機關たる新聞紙の所說によりて分明也對韓政策最後の解決を促すこと急也
▲日韓統一の實を舉げ絕東平和基礎を安全にし內外に於ける韓人取締を嚴にせよ
▲總て日本の意の如くするも列國の異議なかるべく寧ろ身命財產の安全を喜ばむ
▲是れ大阪每日の論ずる所是れ事實の問題眞に是れ至當の言分當局者の猛斷を要す
▲兇徒の組合三十人とは兇徒自身の自白依是觀之是が煽動者たるもの粗ぼ知るべし
▲其根原は明瞭なる上は茲に大斧鉞を加ふは當然の事のみ何の躊躇する所あらず
▲海牙密使事件とスチーブン氏暗殺事件と云ひ今回の事と云ひ禍根恐るべき也
▲此儘に經過すれば斯る禍根は何時迄も蔓さす唯此際採る所置は斷然たる事にあり
▲如何に狂すれば逆韓國の恩人たる公を害するに至ては實際に最早看過する能はず
▲伊公の訃報に接しては流石の隈伯も氣悄然多く語らずと友情の深き左もあらん
▲林董伯曰く天下惜むべき人多しされど伊公の死程哀惜すべきはなしと異倆に然り
▲公の死により大變革起らむ其消息は目睫的に說明するを要せずと夫れ或は然らむ
▲日本に保守進步の二大主義の存するを知る者は保守派の衰微を見ること遠きか
▲然り文官派或は政友會派には異に大打擊西園寺侯では聊か勢力維持に物足らぬ也
▲寺尾法學博士は對韓策進轉の機也と喝破す斯くせば地下の公も遺憾なかるべしと
▲倫敦タイムスは伊公は人類の進步に貢獻せる最大人物也と評せりと是讀解ならず
▲獨逸半官報も亦伊公は偉人にして且つ甚大なる政治的功勞者也と評せりとは可！
▲露帝は伊公は日露親和回復の大有力者公の薨去は露國に取り國家的損害也と宣す
▲米國新聞は韓人は恩人に對し仇を以て報ひたりと[illegible]

伊藤公狙擊の兇徒はウンチアンなるもの[illegible]りと自白したる旨公報ありたるが昨夜哈爾賓より其筋へ達したる公依に依れば犯人は[illegible]國官憲に於て取調べたることなれば名を秘して且つ西北學會の首腦たる前參領李甲、同柳東說(以上京城在住)及び壯年の交米圖[illegible]に對を後にしたれば應七安即ちウンチアン[illegible]玆に注目すべきは安昌鎬は今より約一ヶ月前京城に來り李甲、柳東說其他の排日派との形跡あり而して李甲及安昌鎬は遂かに居を變して目下平壤南大門外に潜伏し居り[illegible]

噫!!伊藤公爵(三)

若い縣知事 梁山伯の縱論橫議

公等が密航同樣に英國に渡航したる事抔は余りに人口に膾炙し居りて、今更に事新らしく書立てる必要もなからう、故に記者は一足飛びに梁山伯時代に移りて、其中最も興味を喚ずる點のみを書いて見ようか。築地本願寺の隣邸に大隈八太郎や、大木喬平や、井上聞多等が寄合て梁山伯を作つた、此等の連中は何れも血氣盛りで、縱論橫議實に當る可らざる勢であつた、其當時公の廿何歲の若い年で兵庫縣令をして居つた、磊落放縱にして每晩**貸座敷**に**乘馬で繰込み**朝は貸座敷より乘馬で縣廳へ出勤すると云ふ次第である、されど公の事なれば決して之が爲に廳務を澁滯させる樣の事は毫もなかつたのである、而も身は神戶にあるも種々なる意見を吐露して**中央政府に建策**したのである、身は地方官なれども其心に於ては內閣の一員で國家の休戚を雙肩に荷ふて居る考で居つたのである、其意氣[illegible]旺烈なる當時の地方官等には樂にしたくもない、當時は大久保甲東の勢力は殆ど廟堂を壓して居つたのである、其大久保が公や大隈の建策をズン／＼用ひたので、其身は閣員に列せざるも**閣員と同一**であつた、所が若しも大久保の政策にして非なるものがあれば、公は遠慮なく反對意見を發表してドシ／＼攻擊したのである、所謂氣焰萬丈にして流石の甲東も恐れたと云ふ事である、之等の爲か公は忽ち東京に呼び戾されて幕僚專門となつて、築地**梁山伯の豪傑**となつた、何れも敗けず劣らぬ連中計りで議論に花が咲くときは徹宵論じ合つた事もある、併し放論豪語すると雖も決して無責任なる机上の空論でない、論ずる所は直に廟堂に立て行ふ所である、當時の施政は總て此梁山伯より生れ出たるものと云ふも敢て過言でなかつたろう、亦大久保でも木戶でも何かと云へば梁山伯連に相談をしたのである、斯の如くなれば身は無位無官でも今日の大臣と同じである、維新の大業は多く之等の豪傑連によりてなされたのである、是を思ふと今日の若いものは實に意氣地のないものである。

當時京濱間鐵道の布設に就ては政府に於ても非常に頭を惱ましたものである、之が布設を實行するには流石の甲東も痛心したと云ふ事である、此際に於て一意斷行を迫つたのは**公と大隈**であつたと云ふ事である、梁山伯中でも公と大隈は最も傑出して居つた、多くの建策は此二人者に出でゝ大久保甲東は是が實行者であつた、斯る狀態なるを以て當時の政治は頗る振つたものであつた。

●畏き九重の奧

▲傳へ聞くだに恐多し

二十六日午後四時伊藤公遭難の第一報宮內省に達するや岩倉宮相先づ愕然としてこれを德大寺侍從長に傳へんとする折柄第二の悲報至り宮相更に愕然急ぎ德大寺侍從長の下に驅け付しも吃りて語る能はず戰く雙手僅に二通の悲報を示せば**侍從長の白髯動き顏色忽ち蒼然**として椅子に堪へずして戰慄久しくしてコンナ事が奏上し得られ樣かと一言潛然として**淚垂れ**兩人憂愁に沈める際三度外務省より確報に接し今は言葉なく倉惶德大寺侍從長より**陛下に言上するの句**も**切れ／＼**に悲報の次第を**奏上**するや**陛下には玉座を進ませられ伊藤が**と**龍顏御憂色を帶び**させられ暫くありて**何故じや早く取糺**せよとの**御諚**あり侍從長は直に在哈爾賓官憲の下に委細直に報せよとの飛電を發せしに陛下には更に御軫念あらせられ**哀悼の御有樣を見奉り**て侍從長は潸然として**御前に伏**して又一語なかりき 飛報頻々と奏上せらるゝや**御氣色愈々勝**らせられず**大膳職**より**進め奉れる夕の御食事も用なし**とて御召あらせられず 九重の奧愁雲深く閉されたる事聞くも悲しく海恩斯の如し伊藤公亦以て瞑すべし

●肺病を苦にして縊死

▲溫突の梁に帶打掛けて

縊死を企てたる憐れなる物語あり玆に原籍長崎縣北高來郡江の浦村七百廿四番地當時京城大和町二丁目廿八番戶居留平民山口秀次(三〇)は不治の肺病を苦にして一昨廿八日午後自宅溫突室內に於て寢卷單衣一枚の下にメリヤス襯衣を着し高さ六尺位の朝鮮式色紙の天井を破り其上約一尺の所に橫はる松丸木の棟木に內緣の妻丸井かぎが平常用ひる博多織巾一寸長さ四尺位の腰帶の中央部を頸に纏ひ後頸部にて堅く結し兩端を棟木に結び火箱を踏臺にして縊死の裝置を了したる後火箱の臺を踏み外したるものゝ如く足爪先は殆んど座に觸れんとするまで垂下し顏部は南方に向け縊死を遂げ居たるを同日午後三時頃某雜貨商店の注文取りが發見して腰を拔し周章狼狽ながら斯くと近隣の誰彼に告げたれば直ちに外出中の妻の元へ通知せしに大に驚き歸宅し此旨和城臺派出所に屆出で警官は高久醫師同道現場に出張して取調べたるに原因は生活難に加へて不治の病を深く苦にし妻の苦勞をも氣兼ねたるらしく室內の壁の中央に原籍地及び其氏名並びに親族二人の姓名所轄村役場等を詳細に記載し樹薬醬にて通知賴むと認めたるを發見したるが死體は內緣の妻かぎに引渡せり

●意見から大喧嘩

一昨日午後九時半頃仁川敷島遊廓敷島樓支店に於て摺つた揉んだの喧嘩の眞最中なりとの由を聞知したる花町派出所詰警官は即刻同樓に出張して取調べたるに同樓內若駒の部屋に於て仁川本町一丁目富士商會方土木業淸水音吉(三三)及び同人方帳場靑木兼吉(三五)とが前々より流連して紀文大盡を氣取り居たる處へ前記靑木の兄弟分なる松坂町居住の小川伊吉(三九)と云ふが來り意見を爲したる上靑木をば連れ歸らんとしたるより玆に端なくも爭鬪を惹起したるものと判明せしかば右三名に對し不心得なき樣說諭し退れり

●醉つて件の如し

鐘路一丁目番戶不詳高橋俊造(三四)大和町一丁目五十三番戶石井房太郎(三九)の兩人は一昨日午前一時三十分頃太平町一丁目淸國人麗華園楊本賢の庭內に闖入熟眠し居たる處を訴へに依り巡査出張して取調べたるに兩人は同町一丁目料理店九州亭に於て飮酒の結果酩酊し同亭の二階より轉げ落ちたるものと判明し目玉を頂戴して歸宅せしめたり

●下層韓人の不埒

仁川署に於ては伊藤公遭難に對する管內居住韓人の動靜如何を密偵中なるが聞く處に依れば多少思慮ある兩班連は寄々額を突き合せて今后の國運を疑懼せるもの丶如けれど擔軍等の勞働に從事せる無識の徒は只だ譯も分らず藤公を暗殺したる兇漢の自國人なるを誇として喜色を浮ぶるものありと雖も一般に人心靜穩を保ち居れるが如しと

●日淸人間の爭鬪

と云つても大した事にならず仁川京町一丁目居住の雜貨商李後頷(三〇)と云ふは魚商阪本倉藏(三六)と一昨日午後八時頃商品賣買上の事より喧嘩を始め撲り合ひの最中巡査出張して雙方を引分け說諭の上放還したりと

●相川撰手の上阪

京龍秋季自轉車競爭會に於て未曾有の大速力を出し約三町の大差を以て空前の大勝を得たる相川留一氏は十一月三日大阪に開催せらるゝ全國聯合自轉車競爭會に加入の爲め去る廿七日南大門出發上阪の途に上りたりと云ふ

●京城ホテルの發展

南山町三丁目京城ホテルにては從來京釜線の食堂を受負ひ居れるが更に來月一日より京義線の食堂を引受け且つ南大門停車場に簡單なる食堂を設け來月一日より開始する筈なり又同ホテルは大小宴會食堂の外小食堂を設けた、且つ旅館部をも經營せるが旅館は總べて日本風にして食料も元より純日本式にて宿料の如きも一般旅館の規定に準じ大勉強を爲しつゝあれば場所の閑靜に室內の淸潔と食料の精選さるだけ旅客に取ては便利至極なり

●壽座の歌舞伎座

▲福井は本日乘込む筈

福井茂兵衛伊原文夫一派は昨夜釜山を出發したれば**今朝**當地に**乘込む**筈而して初日は來月**一日**にして演物は既報『ウェニスの商人』と『潮』に決定せり又歌舞伎座は連夜大入の爲め當分打ち續くる由にて赤垣源藏は櫻風村雨以上好評

●娼妓の無斷外出

仁川敷島遊廓高砂樓の抱娼妓山代及び仙代は一昨日花町派出所巡查の承認を得ずして寺町一丁目安洗濯屋まで外出し亦た敷島支店の光良も同じく花町菊屋まで外出したる廉に依り嚴しく將來を戒められたり

●仁川の酌婦檢黴

仁川の酌婦に對し一昨日仁川病院に於て定期檢黴を行ひたり

●人力車體の檢查

仁川署は一昨日市內の人力車夫を召集して車體の檢查を爲せり

●龍山の腸窒扶斯

龍山鐵道官舍神谷信夫は一昨二十八日腸窒扶斯に罹れり

●一昨夜の新町

遊廓の色餓鬼は七十六人にて總計四百三十三圓六十一錢の誤散財

吉凶

本町五丁目 三一館判斷

十月卅日舊九月十七日 ●一白先勝癸亥いぞく △一白● 厄運の日なり万事愼しみ畏るべし的殺(凶方)なし △二黑● 不如意不振の日なり新事見合すべし殊に縱令相談婚姻養子の事談不調 △三碧● 順和の日なり旅行開店開業婚姻等吉 △四綠● 頭進利達の日とす婚姻入學門談判相談契約等に良し △五黃● 不振衰運たり新事見合せの事紛爭盜害防ぐべし △六白● 不意の收利又は便宜を得る事あり其外特記すべきなし △七赤● 收利の日なり但し子孫使用人の事に注意すべし △八白● 窮厄の日なり紛爭澁滯多し盜害橫領防ぐべし △九紫● 不如意の日とす新事見合の事農林業には吉 右は槪括的判斷なり各人格別に付ては直接に同館の鑑定を請はる可し

●福井茂兵衛優(四)

▲當地壽座に出演する

これが政客の芝居總見を遣つた初めでありましたがそれが緣故となつて打揚後には自由黨員が同座で大演說をやつた、それがそもそも政治演說を劇場でやつた嚆矢です。斯んな工合に政治記者として傍政談演說に歌つて居たと言つては表面頗る景氣の可い樣ですが內實は至反對で「めざまし新聞」の經濟も振はず日常の生活も至つて困難でした、すると且つて「松本新聞」在勤の當時懇意であつた長野縣の中山書記官から交涉があつて同縣廳に出仕してくれとの事、一旦は辭したけれども再三の勸めに到底辭任だ決し勸業課勸務を命ぜられた、就職して實地に調査すると帳尻は合つて居るが官林の收入一萬圓餘の行衛が不明であるから嚴しく詮議を初め忽ち檜林知事と大衝突を惹起し縣廳內は大紛擾を極めた、その結果知事書記官は進退伺を提出といふ始末、僕も面白くないので辭表を提出し早々東京に歸つて仕舞つた、言はゞ縣廳を騷がしに行つた樣なものでした、東京では又も『めざまし新聞』に關係し傍ら例の演說をやつて居ると偶然加波山事件が持ち上り僕も嫌疑者の一人として當局者の注目を曳いたのでこいつ恐いと／＼して居ては大變と即刻坂崎君と同人の鄕里土佐へ高飛して姿を隱し板垣退助氏の養子宮地茂春君と交り同家に二年計り食客をして居ました、その間は別に話す程の事もないが只生活の憂慮のない有難さには每日角茂谷といふ處へ出掛けて角茂鳴鹿と名乘り村民を相手に勝手の熱を吹いて居たんです、けれ共何時迄も厄介になつて居られんので橫濱へ歸り這度は宿屋の小和を街の內々は是亭君等の囑託を受けて秘密通信を遣つて居ました、すると保安條令が發布せられ片岡謙吉等が忍び込んで來たのでその筋の搜索嚴しく險呑だつたから閉店して更に方向を變へ、山內一正や奧州に出掛け後藤の組織せる大同團に加入し福島、山形縣地方を遊說して步いた、田舍者相手で手應もせず面白くもないので又候橫濱に引返し壯士連を集めて住民俱樂部を組織し、政治運動に熱中して居た、恰度その時彼の有名な共有物件が出來して上下騷動し將に內亂に至らんとした、事の起原は地主派と商人派の衝突で新開地にはよくある例だが、商工業が勃興するにつけ會社、工場、製造業等が新たに設立けられ晝夜絕へず烟筒から瓦斯とか黑烟を遠慮なく吐き出す、それが農作物に有害といふ處から地主は苦狀を鳴らす、雙方互に激論を鬪はすと彌次馬が煽てるといふ鹽梅で火の手は益々猛烈となりドいの結局は內亂を釀すのでムいますが橫濱の共有物事件は即ちそれで當初は左程の事でもなかつたが漸次猖獗となり市會は色めく、市民は動搖する今や血の雨が降らうとしたので吾々住民俱樂部員も傍觀するに忍びず、蹶然たり蹶起したり種々の方法を以て市會議員を說き漸くにして妥協せしめ目出度平和の局を見るに至つたのです、これが爲め橫濱に於ける壯士の勢力は偉大なものとなり壯士の濱か濱の壯士かと歌はるゝ程にも市民の歡迎を受けました

●仁川署長の出迎

[illegible]し重疑ふ可らざ[illegible]

●天氣豫報(自廿九日午後六時 至三十日午後六時)

北西の風晴

廿八日(華氏) 最高溫度 五三、六 最低溫度 三八、八

韓國銀行株買入
京城新報社內

廣告

角商會代理店
前川自轉車店
京城南大門通

開院廣告
十一月一日より開院 每日午前九時より午後四時迄診療に從事し
尙入院の需めに應ず
內科 小兒科 前仁川病院長醫學士 松村三省
診療時間自午後一時至同四時
外科 花柳病科 前漢城病院長 ドクトル メヂチーネ 和田八千穗
自午前九時至正午
眼科內科 耳鼻咽喉科 東京醫科大學選卒業科 醫學得業士 瀧澤喜太郎
同 醫學得業士 赤羽學
當分每月四回、一日、五日、十五日、廿五日
婦人科 醫學得業士 天ヶ瀨健六
龍山居留民團囑託 龍山榮町(文平山麓) 龍山醫院

增築落成御披露
兼て增築中の處今般落成仕候間醉樣方の御來車を奉祈候 謹言
京城南山町一丁目
待合 貸席 入船
電話一一三五番

開業四週年 大賣出し
弊店儀御得意樣の御引立を蒙り日增しに繁榮に赴き候段難有仕合に奉存候偖て素の御愛顧に酬ん爲め來月は恰も開業四週年に相當するを機とし一日より一週間を期し破格の大賣出を開始可仕候間續々御下命の榮を賜はり度奉希上候
百目に付き
ロース 廿二錢 上等肉 十八錢 鷄肉 三十五錢
並肉 十四錢 豚肉 十六錢
明治町一丁目 石田精肉店 電話千〇四十二番
本町一丁目たからや事 石田支店 電話三百二十九番

洋金口煙草 葉卷 パイプ
直輸入商 卸賣 小賣 日希商會
主任メニヤス 電話一二二二番

無害ノ煙草ヲ御照會致シマス
EDP金口莨
は純埃及產にて好製を含み品質を堅牢に致シマス故に衛生を重んせらるゝ好煙諸彥には特に御愛顧を蒙る次第で御座りマス直段は百本入七十五錢以上色々有マス
不拘多少御用命仰付被下度奉願候

各種洗濯石鹼 專門製造販賣
用途
陸軍、鐵道、船舶、鑛山、水道湯屋、散髮、諸工業用
京城旭町二丁目 (電話九七三番)
朝日石鹼製造所

原料直輸入廉價調製各種木形新着
●弊店の特色御注文品と否とに不拘材料は精選しスタイルは最新の粋を集め常に諸彦の御滿足を得實地御試用被下度候
●京城間は御一報次第店員を派し地方は御一報次第見本統御送附可仕候
深ゴム靴 特價 六圓五十錢
アミ上靴 五圓五十錢
淺ゴム靴 五圓五十錢
京城本町一丁目（郵便局前）
東京 北村支店
店主 磯部廣吉 謹告

季節大賣出し
自十月廿五日 至十一月三日 正札より一割引
季節嶄新流行品多數荷着致候に付前記の通り大賣出仕候間續々御來店の上多少に拘らず御買上の程伏而願上候
京城本町二丁目
東京小間物 御小賣
夏川商店

●品質純良の牛乳を得んとせば乳牛の食料に注意を要す弊場は此に留意し好良の食料を給す
●衛生搾取の牛乳を愛飲せらるゝ諸彦よ最も滋養豊富なる弊場の牛乳を飲用し得らるべし
京城本町五丁目(電四七番)
販賣元 仁川 松尾支店
京城東四軒町(電七五番)
搾取所 松尾牧場

移轉御披露
これまで太平町にて營業を致して居りました處が皆様方の御引立を蒙りまして手狭を覺ゆるまでの繁昌になりましたから今回肩書の場所に移りました就てはどうか從前よりも一層以上の御贔負を賜りますよう懇ろに御願申上候
西小門通（元横濱亭跡）
御料理 初音

日韓印刷株式會社
營業科目
活版、石版、銅版 各種印刷
帳簿裝釘、書籍製本及ビ印刷
材料販賣
運ク諸材料ノ精撰ヲ計リ期日ノ正確ヲ旨トシ最モ敏活ニ最モ低廉ニ御高需ニ應ジ候間多少ニ不係御注文ノ程希上候
本社 京城明治町三丁目 電話三二三番
出張所 東京麹町區麹町八丁目十九番地 電話番町二九〇番

明治廿年七月創立
東京火災(海上・運送)保險株式會社
京城代辦店 本町四山口吳服店 電話九番
資本金一千萬圓
事務所 京城本町一ノ二 電話一〇六〇番

神戸養生分院
京城梅毒病院
京城相生町(南門湯横)
◎花柳病專門 痔一般 (注射療法)
●入院隨意●
院長 醫學得業士 蘆田耕平

●電話開通 八百二十五番●
唐津石炭直輸入商
並ニ平壤無煙炭あり
京城太平町二丁目九五
南大門高等女學校裏通り
近藤商店

時節柄敷物及夜具等新調仕り室内の設備も相整申候間御客様に對しては叮嚀親切を旨とし調理の義は從來よりも一層勉强可仕候間倍舊の御引立奉願候
京城南山町四丁目
原金旅館
(電話長一〇七番)

京城光化門通
淺田洋服店
店主 大島專藏
(電話四百十三番)

胃腸消化新劑
澱粉消化 チヤスタリン
蛋白脂肪消化 チグスチン
錠劑十二分(三十粒入一瓶)二十錢
散劑一オンス入(一瓶)二十錢
錠劑十日分(三十瓶入一瓶)三十錢
散劑一オンス入(一瓶)四十錢
右は最近内地に於て急激の需用を來たしたる名藥嘖々たる世界無比の理想的絶品にして各地有名なる藥店に於て販賣す
●大韓醫院御用藥
韓國一手賣捌元 京城光化門通 大島專藏

一とろゝ汁 拾貳錢
一麥飯 五錢
會席御料理 御一人前 金五十錢
吸もの、さしみ、口取 外二品御酒一本付
京城曙町(元大韓日報社跡二階建)電話取次千四十二番
俵すし 松善
折詰御辨當及出前は特に勉强御調進可申候間多少とも御注文希申候

懷中要藥
清心丹は旅行携帶藥として缺く可からざる良藥にして滊車滊船の患ひを快よくすること妙
清心丹は高尚なる香氣を含み口熱惡臭を拂し咽喉を潤し音聲を清朗ならしむる特効有るを以て發聲家其他交際場裡の必携劑なり
清心丹は遠足之際口に含みて走るときは息切することなし
清心丹は風土變り水あたり等の恐れあるときは時々二三粒ヅヽ用ゆれば其患ひなからしむ
清心丹は過酒過食之停滯を解し消化を良好ならしむること妙
清心丹は暑さ寒さあたりにて下痢腹痛には三十粒乃至四十粒を噛み碎き三四回用ゆれば必ず奇効あり
清心丹は傳染病流行地に於ては常に二三粒噛み碎用ひて大に豫防す
清心丹は人參の高價と高木兵衛の名義へ御注意之上御求めを乞ふ
清心丹は定價金一圓(箱入)五十錢(箱入)貳十錢五錢(紙包)の八種あり
清心丹は製造本舗は東京市日本橋區元大坂町八番地にして取次は最寄調劑る所の有名藥店にて販賣す
代理店
京城南大門通三丁目 電話(九百四番)(千六十八番) 新井藥房本店
京城本町三丁目 (電話四七八番) 新井藥房分店

蜂印香竄葡萄酒
本品は其質醇良にして營養分に富み日常の飲料として元氣を增し顏色を艶にし衛生に補益有る
FRAGRANT WINE
D. KAMIYA
SOLE AGENT
R. KONDO

京城南山町三丁目(元日本人俱樂部事)
京城ホテル
長電話 一二三番
電話 四九二番

特約販賣 自製
漬物 味噌 醤油 製造元
京城本町五丁目
大上商店
(電話二五一番)
和洋酒、罐詰、精酎、穀物類、銘茶、乾物荒物、食料雜貨、ビール、米糀、食鹽、日本食鹽各種特約販賣商御望に依り商品切手調進仕候

蒸氣消毒 牛乳
京城大和町一丁目
平山牧場
電話一三三

會席御料理御一人前
四品付 酒一本 金六十錢
すき燒其の外應御好
京城竹園町一丁目
遊樂樓
(元三遊樓跡)

牛乳
荒井牧場
二〇五六

●消閑之清遊●
毎日午後 京城明治町一丁目
開會諸君 予陸續御來臨を賜へ
京城碁會
(大和湯前〇方隣)
●市中之仙境●

日本郵船株式會社
仁川 瀛船出帆廣告
仁川海岸通 電話三九番
貨物及船客取扱店
郡回漕店
●釜山長崎門司神戸行
山東丸 十一月二十日午後三
●大連、太沽行
高砂丸 十一月十八日正午
●大連、大沽行
山東丸 十一月九日午前四時
●大連、大沽、牛莊行
酒田丸 十一月四日正午
●釜山出帆、元山、清津、浦潮行
立神丸 十一月十七日午後出
御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄御送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事